2025 4/26[土]—6/8[日]

開館65年の
節目を迎える
この春、改修
工事を経て
装いを新たに
再始動します。

帰ってきた

（リニューアル記念名品展Ⅰ）

泉屋博古館

いにしえの至宝たち

同時開催 ブロンズギャラリー「中国青銅器の時代」

泉屋博古館 SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM

【休館日】月曜日 【開館時間】午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
【入館料】一般1000円、学生600円、18歳以下無料
●企画展・青銅器館両方ご覧いただけます。●20名以上は団体割引。障がい者手帳ご呈示の方は無料
【主催】公益財団法人 泉屋博古館、日本経済新聞社、京都新聞

2025年4月26日(土)～6月8日(日)

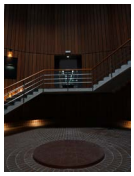
「帰ってきた泉屋博古館　いにしえの至宝たち」展覧会概要

京都東山・鹿ヶ谷の地にて開館以来 65 年目を迎える 2025 年春、当館は 1 年の改修工事を経て装いを新たに再び始動します。記念の第一弾は、一貫して活動の核としてきた住友家伝来の美術品を中心に、日本、中国、朝鮮の古代から近世にいたる美術工芸の代表作を精選してご紹介します。いにしえから名高い逸品、時代とともに新たな価値が見出された優品、さらには今後注目を集める可能性を秘めた珍品。いずれも、時に気高く、時に優しく、出会う度に違った表情を見せてくれます。観る人の心に寄り添う不朽の住友コレクション、その奥深さに再び出会うまたとない機会です。

帰ってきた！ 1 年の改修休館を経て公開活動を再開します。
一新した設備と変わらぬ京都東山の環境で皆様をお迎えします。

帰ってきた！ 改修工事のため移動していた収蔵品が無事帰還。
一同揃って皆様をお迎えします。

帰ってきた！ 大阪万博の 1970 年に建設され、京都の戦後モダニズム建築として注目される青銅器館。過去の改修で損なわれた象徴空間を取り戻し、皆様をお迎えします。



展覧会の見どころ

1 泉屋博古館の代表作を網羅

絵画、書跡、茶道具や文房具、仏教美術まで、当館が誇る各分野を網羅、6 世紀から 19 世紀にいたる日本・中国・朝鮮の美術工芸の代表作が一堂に並びます。今後注目される可能性を秘めた珍品も ?!

2 住友コレクション、5つのキーワード

館蔵の住友コレクションを 5 つのキーワードから読み解きます。それらを愛で守り継いだ人々の理想や憧れ、祈りや願望、癒やし、そして愉しみを展示室でともに分かち合いましょう。

3 邸宅に招かれたお客様気分でごゆっくり

かつて住友家の別邸の一角だった場所にたたずむ泉屋博古館。東山の緑深く静謐な空間で四季折々の自然を感じながら、住友家に招かれた気分で心ゆくまでお過ごしください。

《基本情報》 リニューアル記念名品展 I「帰ってきた泉屋博古館　いにしえの至宝たち」

会　　期　2025 年 4 月 26 日（土）～ 6 月 8 日（日）

開館時間　午前 10 時 ～ 午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日　月曜日（5 月 5 日は開館）、5 月 7 日

併催　ブロンズギャラリー「中国青銅器の時代」

会　　場　泉屋博古館　〒606-8431　京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24
TEL 075-771-6411（代表）　公式サイト https://sen-oku.or.jp/program/20250426_renewal1/

入 館 料　一般 1,000 円（800 円）　学生 600 円（500 円）　18 歳以下無料
※学生ならびに 18 歳以下のかたは証明書のご呈示が必要です　※20 名様以上は（　）内の団体割引
※障がい者手帳等ご呈示のかたはご本人および同伴者一名まで無料

主　　催　公益財団法人 泉屋博古館、 日本経済新聞社、 京都新聞

キーワード 1　神仏のかたち──光の国から

当館では、仏教、神道をはじめ人々の心のよりどころとなった東アジアの宗教美術が見られます。畏怖、尊崇、憧憬──真摯な信仰心に裏付けされたこれらは、信仰を持たない人々にも感動を与える普遍的な芸術作品として今日に伝わりました。その中心をなすのは仏教美術。個人のささやかな願いを込めたかのような金銅仏、森厳な中にも自然のぬくもりを残す木彫仏、きらびやかな仏画──そこには時代、地域によって様々に変化する多様な祈りのかたちがあります。

重要文化財
《弥勒仏立像》
北魏・太和 22 年 (498)
泉屋博古館蔵

正面を見据えた静かな怒りの表情、引き締まった堂々たる量感表現は、運慶に連なる慶派仏師の作として注目される。

《毘沙門天立像》
鎌倉・13 世紀
泉屋博古館蔵

重要文化財　徐九方《水月観音像》
高麗・忠粛王 10 年（至治 3 年・1323）　泉屋博古館蔵

国宝　伝閻次平《秋野牧牛図》
南宋・13 世紀　泉屋博古館蔵

キーワード 2　山は呼んでいる

古来中国では、山は仙人の住む神秘世界であり、宇宙の根源的生命が宿ると考えられました。日本の山岳信仰も根は同一でしょう。遙かに仰ぎ見る存在であると同時に、自ら分け入り体感する存在でもある山。時に厳しくも得がたい風光をたたえる山は、芸術家にインスピレーションを与えてきました。造形化された山々は実景から空想の産物まで様々ですが、いずれも画家や同時代の理想・思いが反映されています。清浄な山気に包まれ非日常の眺望に接し心遊ばせる──都市生活者ならずともいつでも心は山に向かっています。

重要文化財　石濤《黄山図巻》（部分）清・康熙 38 年（1699）　泉屋博古館蔵

中国の世界遺産・黄山（こうざん）は数々の伝説をもつ山岳景勝地。清初期を代表する石濤（せきとう）(1642-1707) が 30 年前の思い出を夢うつつのパノラマに描いた傑作。

キーワード3 花鳥──生きとし生けるもの

つかのまの輝きをみせる花、一瞬のうちに羽ばたき去る鳥──人々は花木や鳥獣の美しい姿に胸打たれ、また限りある生命に共感し、それらに様々な思いを託してきました。

身近なものから珍奇なものまで、神々による造化の妙に敬服し、うつろいゆく姿をとどめようと生み出された芸術の数々は、尽きせぬ自然の営みへの礼賛ともなりました。感性はより鋭敏に、技術はより高度に。ここでは多彩な花鳥表現も見どころです。

伊藤若冲《海棠目白図》
江戸･18 世紀　泉屋博古館蔵

満開の海棠の枝にぎっしりと「目白押し」のメジロ。賑やかなおしゃべりが聞こえそうな豊かな表情、腹の羽毛ももふもふで、愛鳥家 伊藤若冲（1716-1800）ならではの表現が目をひく。代表的連作《動植綵絵》（国宝・皇居三の丸尚蔵館蔵）制作直前の稀少な力作。

沈銓《雪中遊兎図》
清･乾隆 2 年（1737）　泉屋博古館蔵

江戸時代に来日し、迫真の写実表現で蕪村や応挙、若冲らに多大なインパクトを与えた清朝の花鳥画家 沈銓（沈南蘋 1682-？）の大作。こわかわいい野兎に注目。

呉春《蔬菜図巻》（部分）江戸・18-19 世紀　泉屋博古館蔵

明治京都画壇に多大な影響を与えた呉春（1752-1811）が、春夏秋冬の野菜を自由自在な筆遣いでリズミカルに描く。長さ約 8mあまり。高級食材もまじえ、食通だった呉春渾身の一巻。

椿椿山《玉堂富貴・遊蝶・藻魚図》
江戸･天保 11 年 (1840)　泉屋博古館蔵

幕末江戸の画家で、師の渡辺崋山の肖像画でも知られる椿椿山（1801-1854）は、明治東京画壇の礎として再評価が進む。近年明石藩松平家の依頼制作と判明、椿山の代表作との呼び声も高まる。

野々村仁清《白鶴香合》
江戸・17 世紀
泉屋博古館東京蔵

キーワード4　つどいの悦楽、語らいの至福

ひとりの時間は大切ですが、敬愛する友とのひとときもまた代えがたいものです。人が寄れば茶会や書画会、名も無きつどい――そのために用意され愛でられた美術工芸は人々の感性を刺激し、芸術談義の花となったことでしょう。さらには、対面かなわぬ友との画中での邂逅や、茶の湯・煎茶の茶器を通じていにしえの茶人など旧蔵者との時空を越えた語らいをも可能とします。古筆や南画、茶道具など手から手へ受け継がれた美術工芸がかつて過ごした時間も含め、お楽しみください。

《紫泥宝珠式茶銚　萬豊順記型》
泉屋博古館蔵

《小井戸茶碗 銘六地蔵》朝鮮･16 世紀
泉屋博古館東京蔵

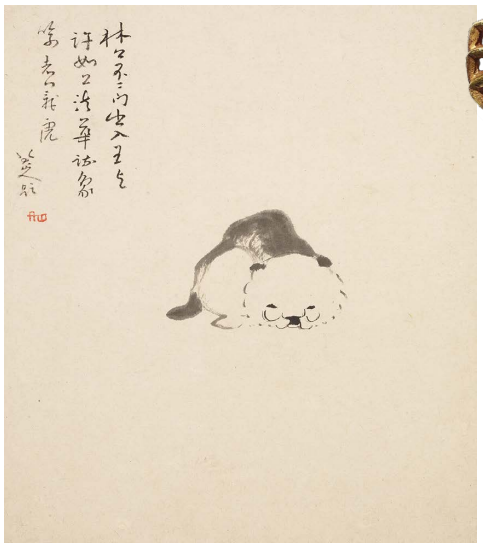
異国の地から海を渡ってきた器。茶の湯、煎茶の席の主役として継承されてきた。右は江戸初期の大名茶人 小堀遠州遺愛の小井戸茶碗。京都伏見の六地蔵で見出したエピソードもその魅力に彩りを添える。

江戸・寛永 3 年(1626)9 月、徳川秀忠、家光の招きに応じ後水尾天皇が二条城に赴き、5 日間にわたりもてなしを受けた寛永行幸。その初日、将軍と全国の大名が集い、天皇一族や公家を城まで導いた歴史的パレードを描く。沿道で浮かれ騒ぐ民衆のどんちゃん騒ぎは他に類を見ない。

京都市指定文化財　《二条城行幸図屏風》(右隻) 江戸･17 世紀　泉屋博古館蔵

キーワード5　小さきものたち

ひとりの時間の秘かな愉しみは、手にとって質感や温度、匂いを感じ、あるいは身につけて重みを味わうこと。大きいほど評価されやすい展覧会芸術とは真逆で展示映えなど論外ながら、当館の隠れた名品がこれら掌中の芸術。形こそ小さいけれど、それらにはきわめて繊細な技と知恵、時に機知や諧謔も含み、人間の本質にも迫る小宇宙が繰り広げられるのです。古今の為政者や高僧、大学者もみな小さきものが大好きでした。



重要文化財　八大山人《安晩帖》
清･康熙 33 年(1694)　泉屋博古館蔵
※会期中に展示替えがあります。

《笹蟹図揃金具 銘 宗與》
のうち目貫　江戸･18世紀
泉屋博古館蔵

《田黄印材 鈕 獅子》《翡翠印材》《田黄印材 鈕 一角獣》
清・18-19 世紀　泉屋博古館蔵

《紫水晶鬼面耳付鼻煙壷》
《瑪瑙栗鼠駱駝図鼻煙壷》
《紫釉龍鳳彫鼻煙壷》
清・19 世紀
泉屋博古館蔵

《花弁供養天人像》
北斉・6 世紀　泉屋博古館蔵

会期中の催し

講演会や学芸員のトークを予定しています。詳細は展覧会ページをご覧ください。

展覧会ページ　https://sen-oku.or.jp/program/20250426_renewal1/

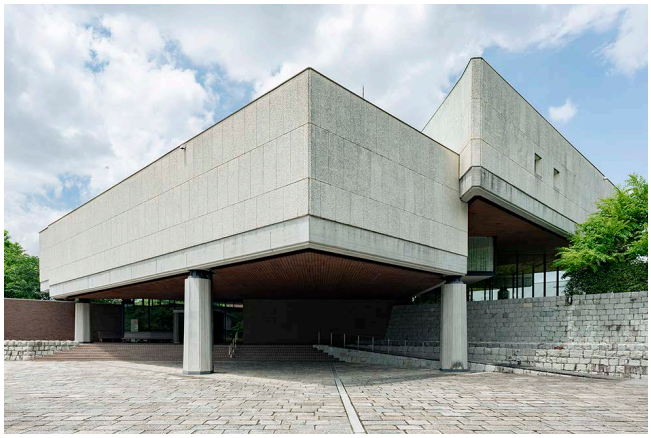
右の QR コードからもアクセスできます。

泉屋博古館とは

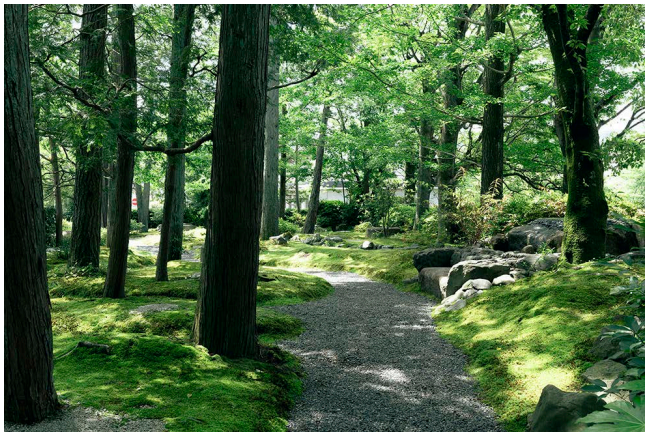
泉屋博古館は住友家が集めた美術品を保存、研究、公開する美術館として 1960（昭和 35）年に財団設立されました。

住友コレクションの多くは、住友家第 15 代当主・住友吉左衛門友純（すみとも きちざえもん ともいと）〔号：春翠（しゅんすい）（1864 ～ 1926）〕によって明治時代中頃から大正時代にかけて集められたもので、特に、中国古代青銅器のコレクションは質と量ともに世界有数の青銅器コレクションとして高く評価されています。現在は青銅器のほか、中国・日本書画、西洋絵画、近代陶磁器、茶道具、文房具、さらには能面・能装束など、幅広い領域にわたる作品 3,500 件（国宝 2 件、重要文化財 19 件、重要美術品 60 件を含む）以上を有し、京都と東京の 2 都市で住友コレクションの魅力を発信する施設として運営しています。

当館の施設は 1970 年、大阪で開催された日本万国博覧会に向け世界各国から訪れる人々をもてなす迎賓館として誕生しました。建設から 50 余年の年月を経た古い設備を刷新し、現代のスタイルに対応した快適な観賞空間とするため、一年間の休館期間を設けて改修工事を行いました。2025 年春、ふたたび関西において万国博覧会が開催される年に、満を持してリニューアルオープンいたします。



泉屋博古館 外観



前庭『泉屋博古の庭』

交通アクセス

京都市バス　JR・新幹線・近鉄電車「京都駅」／京阪電車「三条駅」から 5 系統

阪急電車「烏丸駅」から 32、203 系統

地下鉄烏丸線「丸太町駅」から 93、204 系統

5、93、203、204 系統：「東天王町」下車、東へ徒歩 200 メートル

32 系統：「宮ノ前町」下車すぐ

地下鉄　東西線「蹴上駅」から徒歩約 20 分

〔問い合わせ先〕　泉屋博古館　広報担当　坂井さおり　pr-kyoto@sen-oku.or.jp

電話 075-771-6411　FAX 075-771-6099　HP https://sen-oku.or.jp/kyoto/

リニューアル記念名品展Ⅰ「帰ってきた泉屋博古館　いにしえの至宝たち」
広報用画像一覧　　会場：泉屋博古館（京都）

重要文化財　徐九方《水月観音像》
高麗・忠肅王 10 年（至治 3 年）1323
泉屋博古館蔵

伊藤若冲《海棠目白図》
江戸･18 世紀　泉屋博古館蔵

椿椿山《玉堂富貴・遊蝶・藻魚図》
江戸･天保 11 年 (1840)　泉屋博古館蔵

呉春《蔬菜図巻》(部分) 江戸・18-19 世紀　泉屋博古館蔵

《毘沙門天立像》
鎌倉・13 世紀　泉屋博古館蔵

《小井戸茶碗 銘六地蔵》
朝鮮･16 世紀　泉屋博古館東京蔵

重要文化財　石濤《黄山図巻》(部分)
清･康熙 38 年 (1699)　泉屋博古館蔵

右：《紫水晶鬼面耳付鼻煙壺》
左：《瑪瑙栗鼠駱駝図鼻煙壺》
清・19 世紀
泉屋博古館蔵

重要文化財　八大山人《安晩帖》
清･康熙 33 年 (1694)　泉屋博古館蔵

重要文化財　《是害房絵巻》(部分) 南北朝･14 世紀　泉屋博古館蔵